

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017年1月実績 速報版(パネル 270)

12月実績 確報版(パネル 270)

(2017年2月21日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年2月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年1月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	86,190,887	100.0%	102.2%	100.3%
食品合計	76,906,898	89.2%	102.7%	100.6%
生鮮3部門合計	30,187,528	35.0%	103.3%	101.1%
青果	12,033,354	14.0%	107.0%	104.9%
水産	7,898,523	9.2%	99.3%	97.3%
畜産	10,255,652	11.9%	102.3%	99.9%
惣菜	8,587,933	10.0%	103.4%	101.0%
日配	16,340,340	19.0%	102.2%	100.0%
一般食品	21,791,098	25.3%	102.2%	100.4%
非食品	6,723,301	7.8%	98.5%	98.4%
その他	2,560,733	3.0%	95.2%	95.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,712,930	43	101.6%	100.2%
関東地方	31,426,646	73	102.2%	101.0%
中部地方	10,496,831	53	104.1%	98.9%
近畿地方	19,584,942	44	101.8%	100.4%
中国・四国地方	8,579,689	34	103.7%	98.7%
九州・沖縄地方	4,389,849	23	99.7%	100.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	715,093	47	96.9%	96.9%
4~10店舗	3,535,465	68	101.1%	99.3%
11~25店舗	9,917,911	66	100.2%	100.6%
26~50店舗	15,689,261	46	101.8%	99.3%
51店舗以上	56,333,156	43	102.7%	100.6%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	83,884,200
総店舗数 (店舗)	7,748	店舗平均月商 (万円)	11,124
総売場面積 (㎡)	12,770,647	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年2月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2016年12月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	102,937,877	100.0%	102.5%	100.5%
食品合計	91,688,779	89.1%	103.3%	101.1%
生鮮3部門合計	35,258,220	34.3%	104.4%	102.1%
青果	13,576,306	13.2%	110.3%	107.9%
水産	10,029,983	9.7%	99.2%	97.2%
畜産	11,651,931	11.3%	102.8%	100.4%
惣菜	10,069,568	9.8%	103.0%	100.6%
日配	19,045,150	18.5%	103.3%	101.3%
一般食品	27,315,841	26.5%	101.9%	100.0%
非食品	8,110,934	7.9%	96.8%	96.6%
その他	3,138,213	3.0%	95.2%	95.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	15,149,123	43	102.0%	100.7%
関東地方	37,769,370	73	103.1%	101.9%
中部地方	12,834,775	53	104.0%	99.4%
近畿地方	21,164,721	44	100.6%	99.6%
中国・四国地方	10,538,151	34	104.2%	99.0%
九州・沖縄地方	5,481,737	23	102.2%	100.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	940,867	47	98.1%	98.1%
4~10店舗	4,402,458	68	101.0%	99.9%
11~25店舗	11,942,230	65	100.4%	100.4%
26~50店舗	20,357,683	47	103.1%	100.1%
51店舗以上	65,294,638	43	102.8%	100.8%

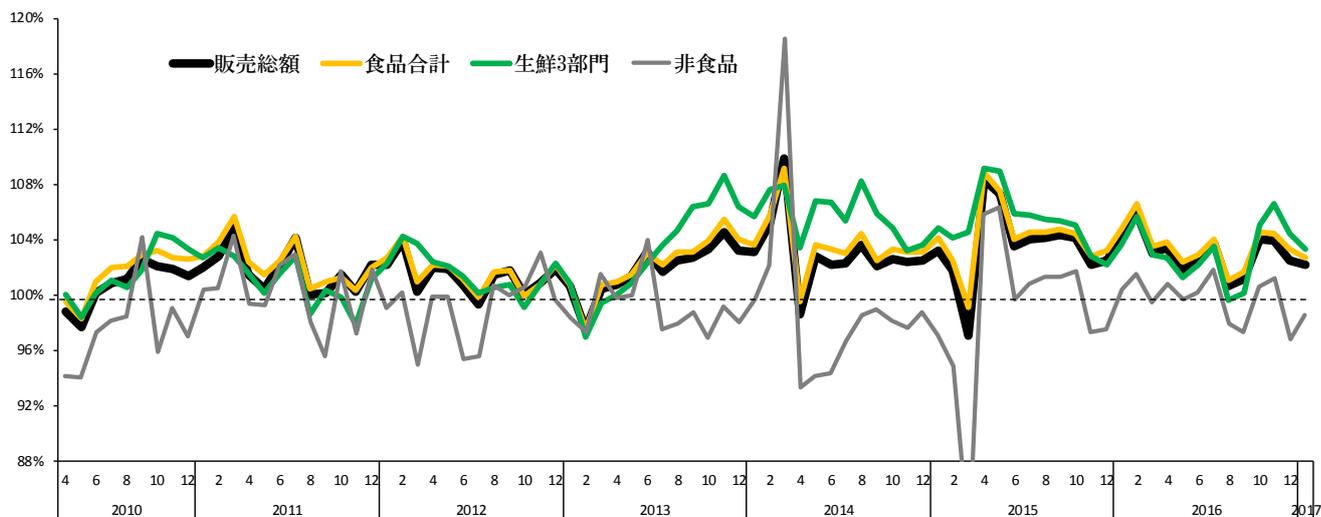
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	100,009,437
総店舗数 (店舗)	7,754	店舗平均月商 (万円)	13,275
総売場面積 (㎡)	12,817,533	売場1㎡あたり売上高 (万円)	8.0

※売上高は税抜金額

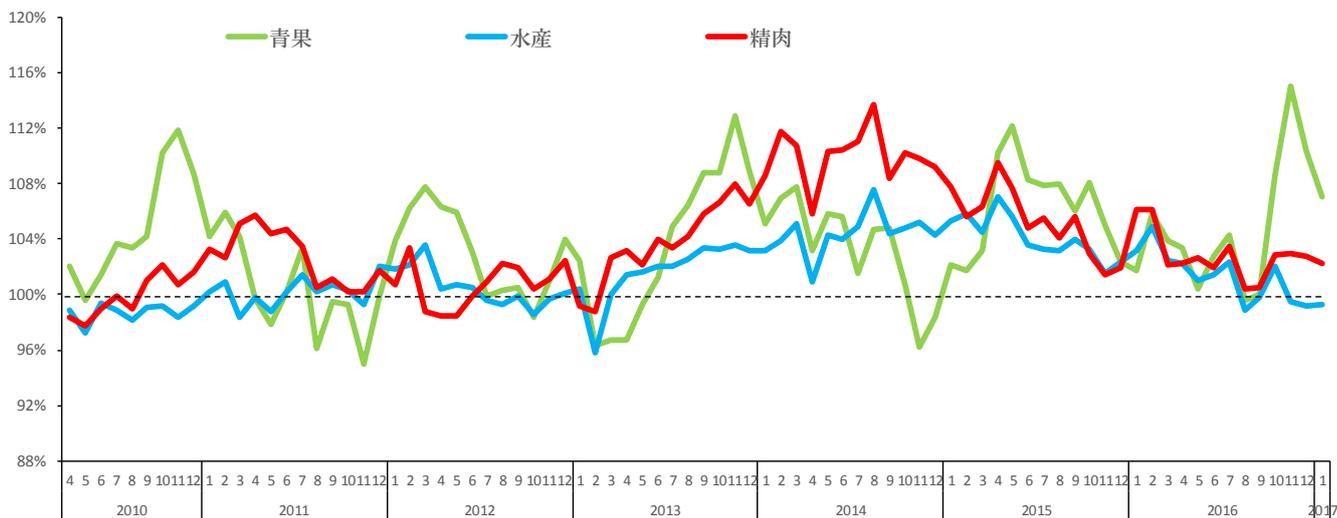
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2017年1月(前年同月比/全店ベース)

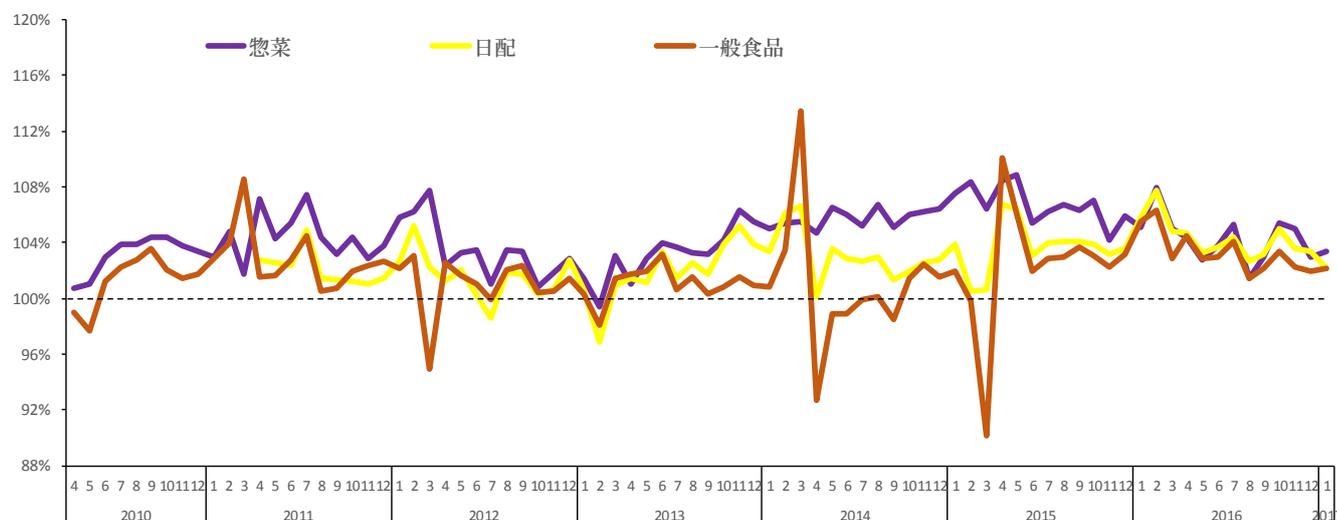
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2016年12月までは確報版による前年同月比、2017年1月は速報版による前年同月比
 ※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」、「非食品」に「その他」を含む

2017年1月エリア別気候状況

1. 月の気温：沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった

上旬：西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北・東日本で高かった。

中旬：北・東・西日本で低く、沖縄・奄美で高かった。

下旬：東日本と沖縄・奄美で高く、北・西日本で平年並だった。

2016年1月との比較：関東甲信や東海地方でやや低くなったほかは、ほぼ平年並みであった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2017年1月			2016年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.7	-1.1	0.1	0.9	-0.7	0.5	-0.2	-0.4	-0.4
東北地方	1.9	-0.9	0.8	2.2	-0.1	0.4	-0.3	-0.8	0.4
関東甲信地方	1.0	-0.8	1.1	2.8	0.2	-0.5	-1.8	-1.0	1.6
北陸地方	2.1	-0.8	0.3	2.8	-0.3	-0.1	-0.7	-0.5	0.4
東海地方	1.6	-1.1	0.4	2.7	0.4	-0.1	-1.1	-1.5	0.5
近畿地方	2.0	-0.9	-0.1	2.5	0.2	0.1	-0.5	-1.1	-0.2
中国地方	2.2	-0.8	-0.2	2.2	-0.5	-0.2	0.0	-0.3	0.0
四国地方	2.1	-0.7	0.5	2.2	-0.1	0.3	-0.1	-0.6	0.2
九州北部	2.3	-0.5	0.3	2.1	-0.7	-0.3	0.2	0.2	0.6
九州南部・奄美地方	2.6	-0.7	0.1	2.1	-0.3	0.0	0.5	-0.4	0.1



2. 月の日照時間：西日本では日照時間がかなり多かった

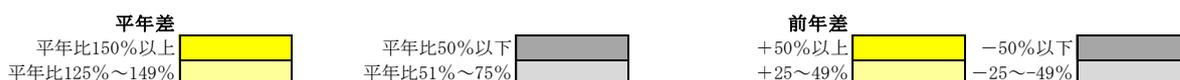
上旬：北日本日本海側と東・西日本、沖縄・奄美で多かった。

中旬：北日本日本海側と西日本で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。

下旬：東日本太平洋側と西日本でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。一方、北日本太平洋側では少なかった。

2016年1月との比較：下旬に西日本を中心に前年より多い日照時間であった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年1月			2016年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	112	94	92	63	86	107	49	8	-15
東北地方	108	112	99	80	85	90	28	27	9
関東甲信地方	115	104	120	121	97	98	-6	7	22
北陸地方	133	87	106	100	44	89	33	43	17
東海地方	115	104	117	116	102	101	-1	2	16
近畿地方	123	110	107	120	109	99	3	1	8
中国地方	130	104	122	117	94	58	13	10	64
四国地方	112	109	125	92	89	61	20	20	64
九州北部	112	121	135	67	79	48	45	42	87
九州南部・奄美地方	115	97	139	85	78	57	30	19	82



3. 月の降水量：中旬から下旬前半にかけては全国的に寒気が流れ込み、日本海側を中心に大雪となった

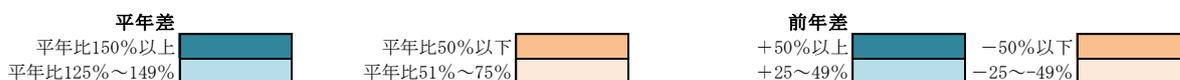
上旬：北・東日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。一方、東日本太平洋側と西日本では多かった。

中旬：東日本日本海側で多かった。一方、西日本太平洋側では少なかった。

下旬：北日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側と東日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。

2016年1月との比較：上旬は全国的に降水量が多く、中旬以降は少ない降水量となった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年1月			2016年1月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	29	77	102	63	165	66	-34	-88	36
東北地方	75	133	72	34	326	81	41	-193	-9
関東甲信地方	186	46	21	1	315	145	185	-269	-124
北陸地方	57	143	102	78	179	126	-21	-36	-24
東海地方	125	65	54	1	128	200	124	-63	-146
近畿地方	133	69	95	6	91	249	127	-22	-154
中国地方	61	106	145	9	152	232	52	-46	-87
四国地方	166	16	27	15	109	276	151	-93	-249
九州北部	180	30	66	37	135	265	143	-105	-199
九州南部・奄美地方	165	53	26	123	160	228	42	-107	-202



気象庁ホームページ・報道発表資料「1月の気候」参照
 平年値は過去30年 (1981年~2010年) の平均
 スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2017年2月調査結果（1月実績）
（2017年2月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は悪化、見通し判断も小幅に悪化し、両DIが接近

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-2.9の44.4、見通し判断も前月から-1.0の43.1となり、4ヵ月ぶりに悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高DIが-7.6、収益DIは-7.9と共にマイナスとなった。正月期間が短く、大雪などの影響もあり、来客数DIが-13.7（前月比-3.7）と大きく下落したことが影響している。高騰している生鮮品仕入原価は9.8と引き続き高水準を維持したことで、客単価DIには、大きな変化は見られなかった。

カテゴリー動向調査は、全般的に、地域による前年との気温差により、好不調に違いが大きくなった。引き続き相場の高騰により、青果DIが17.1と高水準を維持しているものの、他のDIは総じて伸び悩みをみせている。特に不漁による品不足や相場高が続く水産DIは、-18.0まで低下している。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、すべてのDIが前月に比べ悪化しており、特に現状判断の悪化が大きくなった。一方で、長期傾向は、10月からの改善により、わずかなプラス推移で踏みとどまっている。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

引き続き、青果相場高に支えられ、来客数DIのマイナスを客単価DIのプラスでカバーする厳しい環境が続いている状況に変化はみられない。2月はうるう年の翌年であり、前年比のマイナスは織り込み済みであるが、3ヶ月連続の改善のあと、一転して悪化した景気判断の動向に注目したい。今月の動向により、現状判断と見通し判断が接近しており、次月の動向は、今後の方向性を占ううえで、重要な判断材料となる可能性がある。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：44.4 (-2.9) 前月：47.3	消費者購買意欲DI 当月：45.1 (-3.2) 前月：48.3	周辺地域 競合状況DI 当月：41.0 (-2.2) 前月：43.2	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.4 (-1.1) 前月：47.5
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：43.1 (-1.0) 前月：44.1	消費者購買意欲DI 当月：44.2 (-0.5) 前月：44.7	周辺地域 競合状況DI 当月：40.5 (-1.2) 前月：41.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：45.9 (-0.4) 前月：46.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-7.6 (-4.2) 前月：-3.4	客単価DI 当月：4.7 (-0.9) 前月：5.6	来客数DI 当月：-13.7 (-3.7) 前月：-10.0	
収益DI 当月：-7.9 (-3.8) 前月：-4.1	販売価格DI 当月：2.9 (-0.9) 前月：3.8	生鮮品仕入原価DI 当月：9.8 (-3.0) 前月：12.8	食品仕入原価DI 当月：2.7 (+0.9) 前月：1.8

カテゴリー動向

青果DI 当月：17.1 (-7.0) 前月：24.1	水産DI 当月：-18.0 (-1.9) 前月：-16.1	畜産DI 当月：-8.0 (-5.0) 前月：-3.0	
惣菜DI 当月：1.0 (-1.1) 前月：2.1	日配DI 当月：-4.8 (-5.3) 前月：0.5	一般食品DI 当月：-9.8 (-0.8) 前月：-9.0	非食品DI 当月：-12.1 (-0.3) 前月：-11.8

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

2月調査（1月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

2ヵ月連続で下落し、再び弱含み傾向

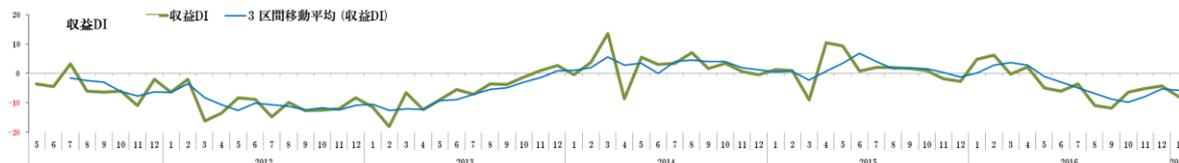
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	6.0	30.8	34.3	28.4	0.5	-3.4
売上高（当月）	8.8	33.0	37.9	20.3	0.0	-7.6



2. 収益DI

2ヵ月連続で下落し、再び弱含み傾向

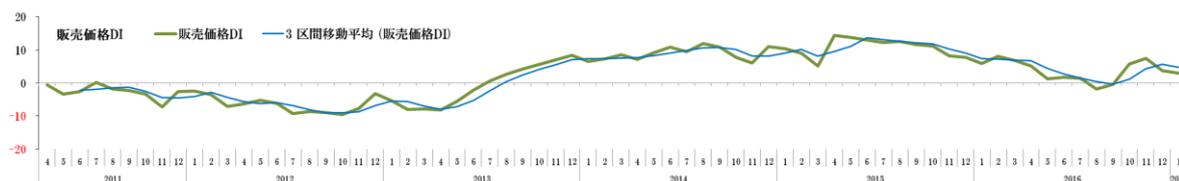
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	5.0	32.7	38.7	21.1	2.5	-4.1
収益（当月）	7.2	35.0	40.6	16.7	0.6	-7.9



3. 販売価格DI

わずかにプラス圏を維持するも、小幅な下落が続く

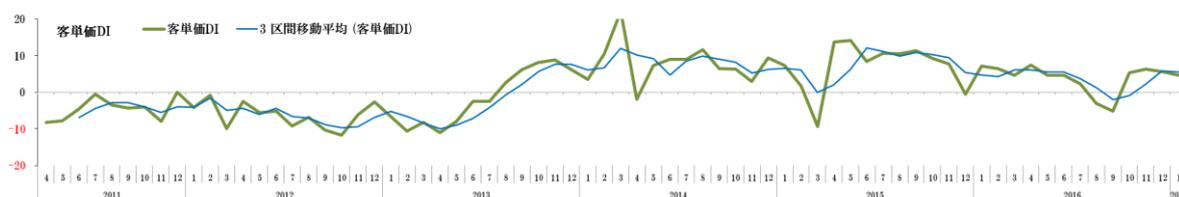
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	12.0	61.5	26.0	0.5	3.8
販売価格（当月）	0.0	9.4	70.2	19.9	0.6	2.9



4. 客単価DI

4ヵ月連続でプラス圏を維持するも、頭の重い状況が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	18.4	41.3	39.8	0.5	5.6
客単価（当月）	0.0	16.5	48.4	35.2	0.0	4.7



5. 来客数 DI

当月下旬し、2ヵ月連続の二桁マイナスを記録

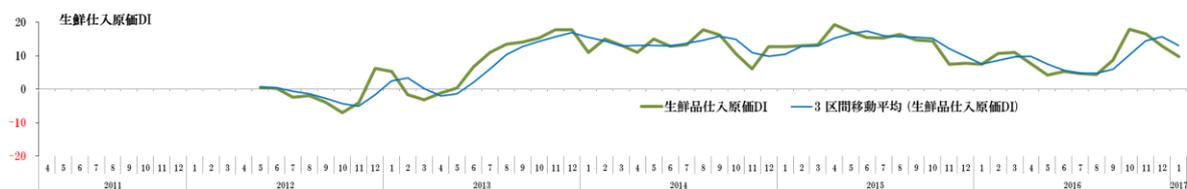
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	5.0	45.8	33.3	15.9	0.0	-10.0
来客数 (当月)	9.4	45.3	35.9	9.4	0.0	-13.7



6. 生鮮仕入原価 DI

当月下旬し、上昇に一服感

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.0	6.2	38.5	49.2	5.1	12.8
生鮮仕入原価 (当月)	2.3	7.4	42.0	45.5	2.8	9.8



7. 食品仕入原価 DI

わずかにプラス圏を維持し、横ばい傾向

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.0	6.1	75.1	16.2	0.5	1.8
食品仕入原価 (当月)	2.8	7.3	67.0	22.3	0.6	2.7

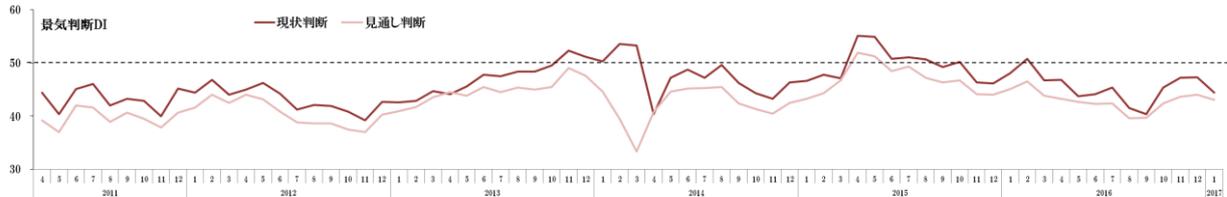


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は大きく悪化するも、見通し判断は小幅な悪化にとどまる

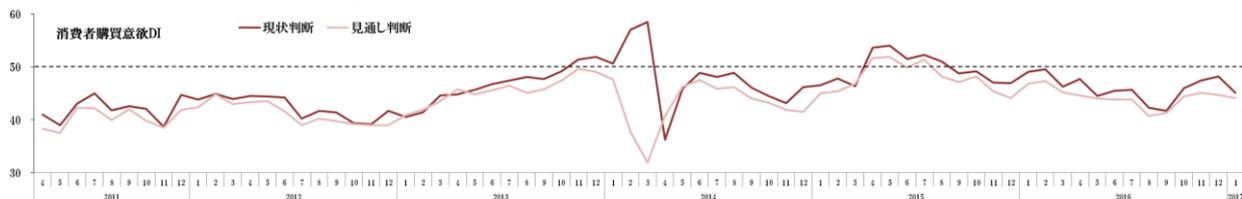
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	0.5	19.4	70.6	9.5	0.0	47.3
【現状】景気判断 (当月)	0.0	27.7	66.8	5.4	0.0	44.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.0	27.7	65.3	5.9	0.0	44.1
【見通し】景気判断 (当月)	0.5	30.4	65.2	3.8	0.0	43.1



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大きく悪化するも、見通し判断は小幅な悪化にとどまる

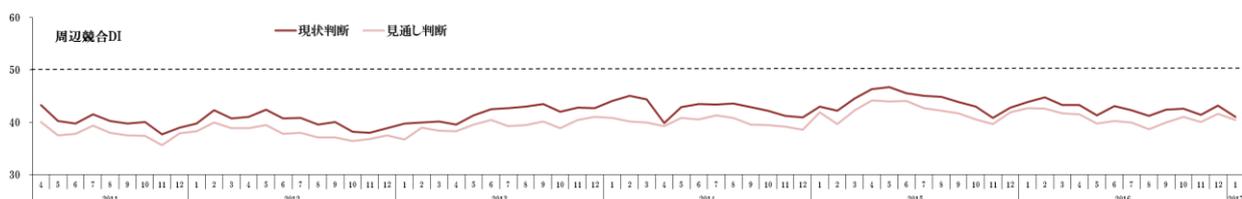
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.0	18.8	69.3	11.9	0.0	48.3
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	25.0	69.6	5.4	0.0	45.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	25.2	69.3	5.0	0.0	44.7
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	26.1	71.2	2.7	0.0	44.2



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に小幅に悪化も、低位横ばい傾向続く

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.5	25.4	69.7	2.0	0.5	43.2
【現状】競合状況 (当月)	4.3	29.3	64.1	2.2	0.0	41.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.5	30.3	65.2	2.0	0.0	41.7
【見通し】競合状況 (当月)	4.9	29.9	63.6	1.6	0.0	40.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

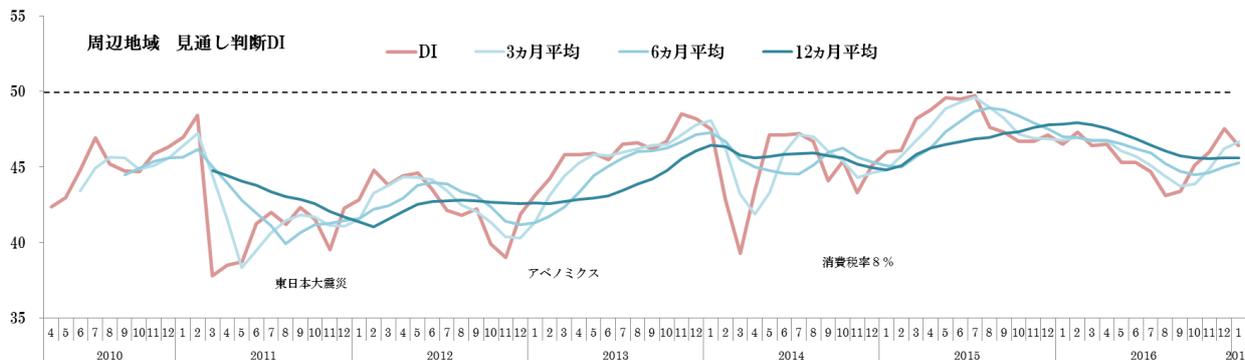
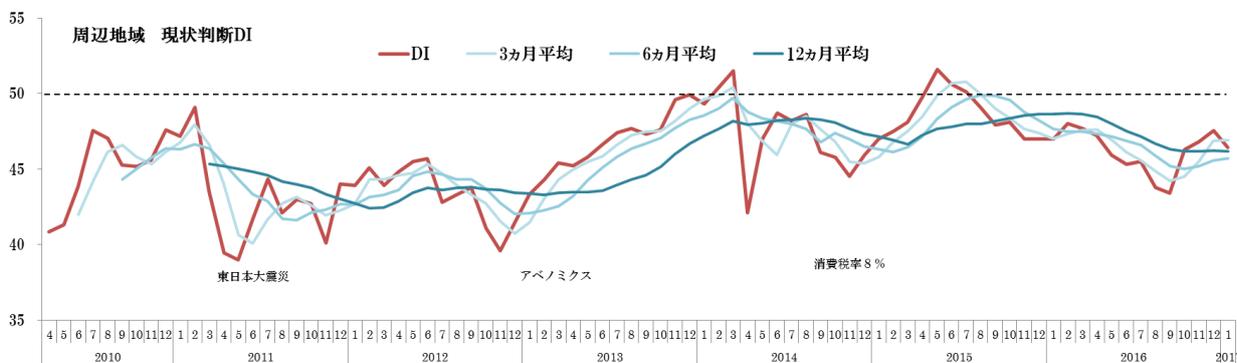
現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	12.9	84.2	3.0	0.0	47.5
【現状】地域景気 (当月)	0.0	15.9	82.4	1.6	0.0	46.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	16.8	79.7	3.0	0.0	46.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.5	16.9	80.9	1.6	0.0	45.9



長期傾向 (2010年4月～)

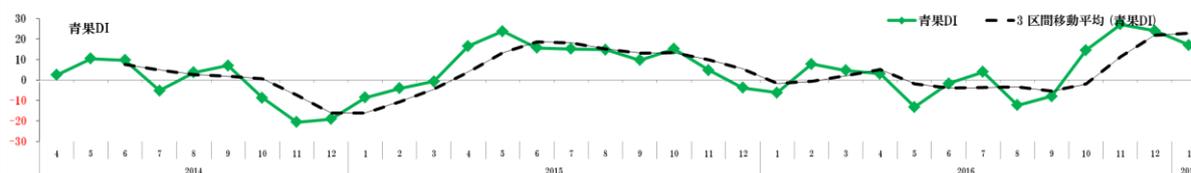
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り再び悪化しているが、直近の改善により、移動平均はすべてプラスを維持している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：17.1（好調）

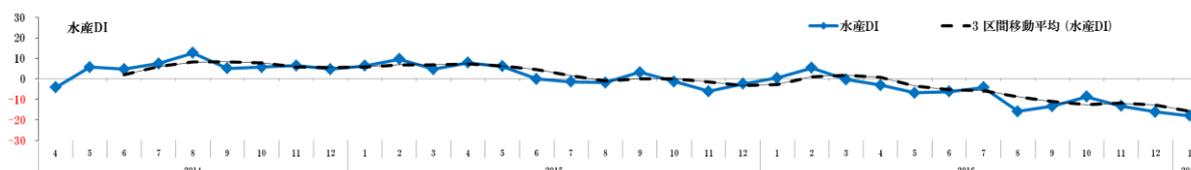
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	0.5	7.3	14.6	50.5	27.1	24.1
青果（当月）	0.6	12.1	21.3	50.6	15.5	17.1



野菜相場は、大型葉物、根菜類を中心に引き続き高値で推移しているが、小分けやカット野菜の拡充により、販売は好調となっているほか、一品単価の上昇もみられた。前年に比べやや低い気温であったことで、鍋需要が高まったことも追い風となっている。サラダ関連も引き続き動きがよい。前年に比べ価格が安定しているみかんは好調となっているが、同様に価格が安定したいちごは、好不調が分かれており、りんごは不調とするコメントが多い。

2. 水産DI：-18.0（不調）

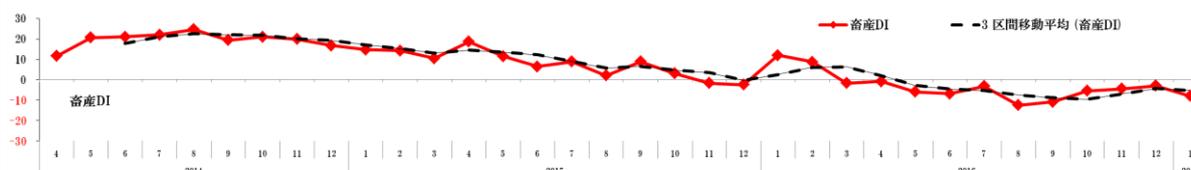
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	13.8	48.7	26.5	10.6	0.5	-16.1
水産（当月）	13.8	51.1	28.2	6.9	0.0	-18.0



不漁により生魚の入荷が少なく、相場も高値で推移したことから不調となった。ノロウイルス報道により貝類（特にカキ）は大きく落ち込みをみせた。比較的入荷量が期待できる養殖ブリの販売を強化した店舗が多い。生するめいかも入荷減の影響で落ち込みが厳しい。正月がやや短く、刺身類は前年並みかやや不調、塩干は不調とするコメントが多い。

3. 畜産DI：-8.0（やや不調）

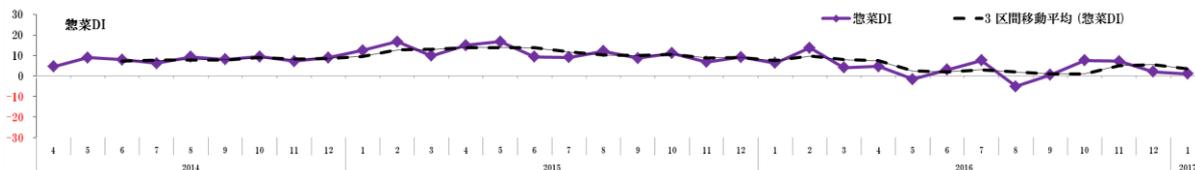
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	2.1	35.4	36.5	24.5	1.6	-3.0
畜産（当月）	4.7	40.7	37.2	16.9	0.6	-8.0



牛肉は和牛を中心に相場高が続いており、年始こそ好調であったものの、その後落ち込みが続いているため、輸入牛の売り込みを強化している店舗が多くみられる。国産豚については全般的に好調であるものの、前年好調であった反動により伸び悩んだ店舗がみられた。一部では、鳥インフルエンザの発生により鶏肉に影響を受けている。加工肉は不調とするコメントが多くみられた。

4. 惣菜DI：1.0（やや好調）

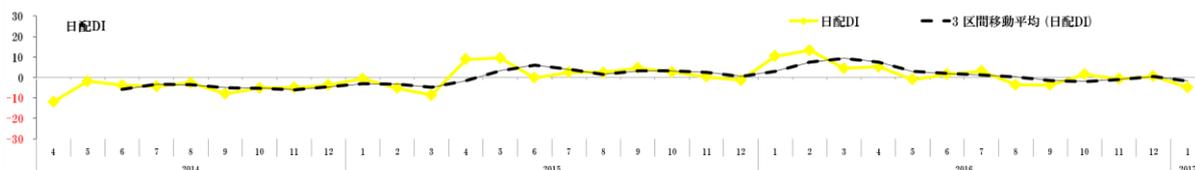
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.6	22.1	43.7	27.4	4.2	2.1
惣菜（当月）	2.3	26.4	40.2	27.0	4.0	1.0



正月商戦は、寿司盛り合わせなどが好調であったが、期間が短い影響を受け、その後、伸び悩んだ。青果の相場高によりサラダ類は好調となった。前年との気温差により、麺や煮物などホットメニューの好調となったものの、米飯類は不調となった店舗が多い。週末雪に見舞われて地域では、来客数減の影響を受け、伸び悩みをみせた。消費者の低価格志向を指摘するコメントもみられた。

5. 日配DI：-4.8（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.6	22.9	45.8	27.1	1.6	0.5
日配（当月）	2.9	34.5	41.5	21.1	0.0	-4.8

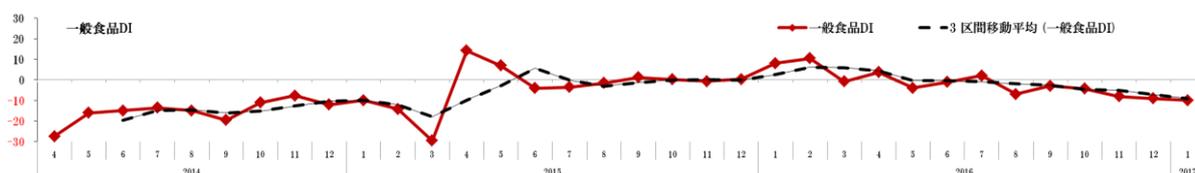


地域による前年との気温差の違いにより、好不調の判断がわかれている。

年始の和日配が不調となったため、気温の低下により、鍋商材に動きがあったが伸び悩んだ。野菜の相場高を受け、冷凍野菜、漬物などは好調となった。インフルエンザ対策で前年好調だった機能性ヨーグルトは前年並みから不調となった。甘酒は引き続き好調だが、パン類も不調とするコメントが多い。鶏卵の相場低下による単価減の影響を指摘するコメントもみられた。

6. 一般食品：-9.8（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.7	41.4	39.8	13.6	0.5	-9.0
一般食品（当月）	4.6	43.4	39.3	12.1	0.6	-9.8

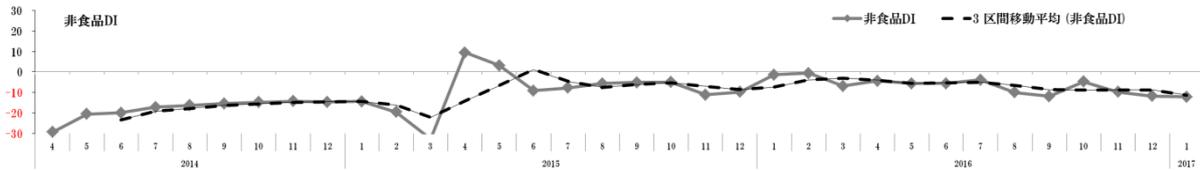


地域による前年との気温差により好不調の判断がわかれている。

メディアで取り上げられた、もち麦をはじめ、単価上昇を追い風に米類や、餅関連はやや好調となった。健康油は、前年の反動により不調となった。一方で、気温の低下した地域では、鍋つゆやカレー・シチューなどが好調となった。一部では前年大雪予報による買いだめ需要の反動もみられた。

7. 非食品 DI：-12.1（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	7.5	44.4	38.0	8.0	2.1	-11.8
非食品（当月）	10.1	40.5	38.1	10.1	1.2	-12.1



インフルエンザ流行により、マスク、ハンドソープ、気温の低下によりカイロなどの防寒用品が好調となったが、引き続き、ドラッグストアなどとの価格競争が激しく、不調となった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2017年2月調査（1月実績）キーワード TOP3

1. 天候要因（大雪、気温差、中旬以降気温低下）
2. 来客数減（正月期間、週末雪、元旦が日曜日）
3. 青果相場高

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

1月実績速報版 202社
 12月実績確報版 184社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp